

【第1部】発表1

審美性に関わる  
日独若者の文化間比較：  
俳句の曖昧性の観点から

檀割 仁平 Jimpei Hitsuwari

●京都大学大学院教育学研究科・博士前期課程

【第1部】発表2

青少年言語とインターネット：  
日本とドイツの  
ソーシャルメディア(ツイッター)  
における新右翼的傾向

タマラ・フックス Tamara Fuchs

●フリードリヒ・アレクサンダー大学  
エアランゲン・ニュルンベルク  
日本学講座 研究助手

「ことばの伝統と  
現代コミュニケーション」

日本とドイツ

【第2部】ディスカッション

●モデレーター

吉田 純 (京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

●パネリスト

タマラ・フックス

檀割 仁平

ステファン・ブリュックナー

(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 助教)

日独同時通訳

2021年 **2月16日** (火) 16:00~18:15 (受付開始15:00)

会場 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川  
オンライン講演(ZOOM)同時開催

※要事前申込 / 参加費無料(会場での参加は先着50名)

お申し込み方法 山岡記念財団ホームページより  
お申し込みください。 ↓ →

<https://yamaoka-memorial.or.jp/event/2021/0216-01.html>

申し込み締切 2021年2月15日(月)12:00迄



主催 一般財団法人 山岡記念財団 〒530-0013 大阪市北区茶屋町1-32 YANMAR FLYING-Y BUILDING Tel:06-7636-0219 Fax:06-7636-0212 E-mail:yamaoka-memorial@yanmar.com



大学院人間・環境学研究科 学際教育研究部

後援



ドイツ連邦共和国総領事館



ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

一般社団法人 大阪日独協会



**樫割 仁平** Jimpei Hitsuwari

京都大学大学院教育学研究科・博士前期課程  
研究テーマは、俳句を題材とした、芸術鑑賞時の「美しい」という感情や感動体験。最近では「わびさび」などにも関心があり、ドイツをはじめ異文化比較を行う中で、日本独自の美意識を心理学的に追及している

発表者  
パネラー



**審美性に関わる日独若者の文化間比較：俳句の曖昧性の観点から**

我が国発祥の俳句の美については、これまで心理学的な研究はほとんど行われてこなかった。俳句の特徴の一つに「曖昧さ」があるが、これは俳句が17字という小さな世界で表現されていることに起因している。曖昧性の受容の程度や曖昧な感情の喚起の程度には文化的な違いがあることが知られており、これらの変数が日本語話者とドイツ語話者の俳句の評価にどのような影響を与えるかを検討した。その結果、両文化で曖昧な感情が俳句の美を予測する一方で、意味の曖昧さが俳句の美に与える影響には文化差があった。

に起因している。曖昧性の受容の程度や曖昧な感情の喚起の程度には文化的な違いがあることが知られており、これらの変数が日本語話者とドイツ語話者の俳句の評価にどのような影響を与えるかを検討した。その結果、両文化で曖昧な感情が俳句の美を予測する一方で、意味の曖昧さが俳句の美に与える影響には文化差があった。

**タマラ・フックス** Tamara Fuchs

フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク  
日本学講座 研究助手  
近代日本を重視した国際コミュニケーションに関するワークショップを行っている  
ドイツと日本の右翼に関する言語分析の研究に関心を持つ

発表者  
パネラー



**青少年言語とインターネット：日本とドイツのソーシャルメディア(ツイッター)における新右翼的傾向**

ソーシャルメディアは、特に若者の言語発達の最も重要な指標の一つとなった上、徐々に政治的なプラットフォームへとなりつつある。本研究では、政治的右派スペクトラムに位置するツイッター上の若者の言語的な違いと類似点を分析して、そこに含意する若者の特殊な態度について考察している。

**ステファン・ブリュックナー** Stefan Brückner

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 助教  
デジタルゲーム研究・メディア研究が専門 異文化間におけるゲームの受容プロセス、プレイヤー体験、ゲームの理論について研究している

パネラー



**吉田 純** Jun Yoshida

京都大学大学院人間・環境学研究科教授・山岡記念財団諮問委員

モデレーター



本シンポジウムも早や第5回を迎えることになりました。第3回(2018年度)からは「日独の若者文化・ライフスタイルの研究」研究助成を受けた若手研究者の成果発表の場として開催されており、この形での開催は3回目となります。2020年度の研究助成には4名が採択されましたが、うち2名はコロナ禍の影響でやむをえず、計画通りに研究に着手できなかったため、来年度のシンポジウムでの発表となります。その結果、今年度は樫割さん、フックスさん2名の発表者に加え、昨年度の研究助成採択者ブリュックナーさんにパネリストとして加わっていただくという形式を取ることになりました。偶然にも発表者2名の研究は、テーマは大きく異なりながらも、「ことば」という重要な共通項をもっています。俳句という伝統文化と、現代のソーシャルメディアでのコミュニケーション、それぞれの研究を通じて、「ことば」を通じた日独文化比較への議論を深めたいと思います。フロアの皆様からの積極的なご発言を期待しています。

特別協力



**ビヨン＝オーレ・カム** Bjorn-Ole Kamm

京都大学文学研究科講師



**田野大輔** Daisuke Tano

甲南大学文学部教授・山岡記念財団諮問委員

**感染症予防対策のため  
ご協力をお願いします**

- マスク着用、こまめな手洗い、アルコールなどによる手指消毒をお願いします。
- 風邪の症状のある方、倦怠感、息苦しさなどのある方のご来場はご遠慮ください。
- 会場内の混雑を防止するため、入場制限、退場規則をする場合がございます。ご了承ください。

**京都市 新型コロナ  
あんしん追跡サービス**

このQRコードを読み取り、登録していただいた方には、この会場で新型コロナウイルスの感染が確認された時にメールにより注意喚起情報をお送りします。(※登録いただいたメールアドレス以外の個人情報取得しません)



**ゲート・インスティトゥート・ヴィラ鴨川**

【会場】 606-8305 京都市左京区吉田河原町19-3

【アクセス】

- JR京都駅より～(所要時間 約30分) 市バス4,17,205番「荒神口」下車、徒歩5分  
京都バス17番「荒神橋」下車、徒歩2分
- バス停「四条河原町」より～(所要時間 約15分) 市バス3,17,205番「荒神口」下車、徒歩5分  
京都バス16,17番「荒神橋」下車、徒歩2分
- 京阪電車～ 「神宮丸太町」下車(5番出口)、北に徒歩6分  
「出町柳」下車(2番出口)、南に徒歩8分

